

IV. 開発テキストの試行による成果と課題

第1章 本調査研究の成果と課題

1 テキスト開発における基本構想

学校管理職のマネジメント力向上を期して進められている本事業であるが、改めて認識している問題状況と解決に向けた方向性を整理する。

まず学校管理職にマネジメント、またはマネジメント力が必要であると内外から言われて相当の年月が経過している。平成24年中教審答申を待つまでもない。これに対して管理職研修として提供されているプログラムは内容としても緻密であり漏れのないものであると言って良い。どのようなプログラムもそうであるが、年月の経るにつれて当初の目的や意図していることが伝わらなくなってくるのであるが、実態として現行プログラムがその目的や意図通りに受講者に伝わっているとは言い難い。デリバリーする実施側の問題など様々な要因が考えられるが、今回コンテンツも含めて一から検討を開始している。

学校管理職のマネジメント研修を設計するにあたり、まずは以下の観点が考えられる。

- ① 学校管理職になる前
- ② 学校管理職になってすぐ
- ③ 学校管理職として一定期間職務遂行している

これら3つのフェーズそれぞれで、提供すべきコンテンツが異なってくる。受講者の状況が異なるからである。これまでの管理職研修は②の対象者に実施されていたであろうか。場合によっては③の対象者もいたであろう。およそ①の対象者には管理職になる前の準備、レディネス形成を主として、②の対象者には一般教職員と管理職との違い、特に管理職としての心構えを主として、③の対象者には日々起きる問題に対してどのように対処すべきか等が主要なテーマになるであろう。

それでは今回本事業でメッセージとしている民意を反映するためのマネジメントの順序性というのはどのフェーズで学ぶべきであろうか？また情報収集や分析、理念浸透（今後開発予定）のプログラムはどこで学ぶべきであろうか？

今回研修の試行を何回も試みているが、基本的には②および③の対象者が多い。今回開発したプログラムもある程度イメージしているが、明確にはしていない。

研修設計の観点は次にその対象者の状態である。上記の時間的な違いのほかに、直面している現実は何か？どのような環境に置かれているのか？という前提である。これは時代と共にその様相は変化している。先に述べた、研修プログラムが時間経過により受講者に伝わらなくなるということもこれが最も大きい要因と考えられる。学校長はどのような現実と直面しているのだろうか？教員の多忙化、保護者の多様化、教育内容の変化、何かどのように作用して学校長の職務に影響を与えているのか？部分的に語られることはあっても全体として学校長の直面する現実についてうまく表現されているものは見受けられない。しかしながら、研修プログラムの設計にあたってはここを曲がりなりにも設定するこ

とが最も重要である。ここが曖昧であれば、研修の効果やその後の改変などは基準がなくなってしまう。

本事業には多くの現職校長が参加している。研修試行では講師として自らプログラム提供もしているが、受講者の状態を知悉していることによるメリットは非常に大きかったのではないかと考えられる。

さて研修設計の観点で最後に「何を提供するか」を考えることになる。これについては前年度の報告書でも既述のとおり、教育行政トップリーダー、すなわち教育長向けのマネジメントテキストをその基本としている。そこから演習で活用するケースなどを改変しているわけである。マネジメントの順序性を伝えること、また研修の形式において、講義となる部分をなるべく廃し、演習による自らの学びを促進することにおいては一定の目的を果たしていると考えられる。

最初の構想から既に3年が経過しているが、あらためて基本構想をメンバー全員ですり合わせる必要があると考える。

2 キストの内容

既述の通り、テキストのベースがあり、そこから検討を加え、主にケースについてその内容を改変している。改めて、各テキストにおいて学校管理職に何を学び取ってもらいたいかを考察する。

① 情報収集

マネジメントの順序性を語る最初のプログラムである。先に情報を収集することそれ自体は問われれば当たり前だと語るであろう。しかしながら、これまで様々な場面で意思決定してきたことが本当に情報収集から始まる流れでしてきたのであろうか？討議の場面をみるにつけ、その発言内容から結局本人のこれまでの経験が左右していることがほとんどである。学校管理職はこれまでの業務経験が20年30年を超える者ばかりである。管理職になるほどであるから、成功体験も数多くもっている。この自らの視野視界による経験則のみにとらわれないようにしたいというメッセージが込められている。無論、これまでの経験則はその後の判断に最も重要なものの一つであることは間違いない。

② 分析

学校管理職の最も課題となるテーマの一つである。これまでの学校管理職研修においてもSWOT等の枠組みや考え方が提示されているが、その型を知識として学ぶだけでツールとして活用されていたとは言い難い。思考の論理性が問われる場面であるが、先に述べた通り、豊富な経験を有する学校管理職は実績の豊富さが故に因果などの論理展開を示すことが不得手である場合が多い。よってここでの演習においてもこれまでの経験が邪魔をしまい、妥当な考えに行き着かない場合が多い。外部への説明責任が問われる場面がこれまで以上に増えている学校管理職にとって、多くの情報からクリティカルな分析をした

上での説明が必須となる。相手への納得度に大きく影響することであり、避けずに対峙していきたい事柄である。

③ 構想

これは校長の専門職基準でもある通り、理念の打ち出しに通ずることである。マネジメントの順序性、まずは民意、情報の収集だといっても一方で教育者として実現したいことがあり、そのために管理職になるということも十分考えられる。知・徳・体を網羅的にいれるべき、こどもの将来を・・・など入れるべき内容とにかく制約が多いように思えるが、ここにこそ学校管理職のその人固有の内容が込められなければならない。

④ 企画

構想やビジョンに近づくためにひとつひとつの施策をしっかりと検討しなければならない。リーダーシップの要件として、いかに周囲のメンバーを巻き込みながら推進するかという内容があるが、まさにこの部分である。企画当事者としての学校管理職ではなく、企画を推進する、多くの有用な企画を出す組織をつくる学校管理職としてのありかたを学ぶ機会としたい。

⑤ 実行

学校管理職の有り様として、「今までのことを今まで通りしっかりと進める」とことと「今までのやり方に固執せず、新しい試みをする」とことがある。本事業では、今までのやり方では通用しないことが多くなってきており、新しい試みをそれぞれの学校の状況に応じて実行できるようにという考えを採用している。つまり後者である。いわゆる変革を起こすことである。この変革を起こすためのステップをそれぞれ学ぶよう設計している。

⑥ 判断

情報収集から実行まで、仕事の進め方を中心にプログラム化している。それぞれの業務遂行上、全ての事柄に正解があるわけではない。しかしながら学校管理職として判断に迫られる場面が数多く存在する。その際に自らはどのような価値基準で判断する私なのか？と受講者に問うのがこのプログラムである。どちらの方法にも一長一短があるが、どちらかを選ぶ。この時に判断した私は何を考え、何を大事に思い、どのような理由がそこにあったのかをあらためて明確にすることを目的としている。これについては受講者の非常に深い所に迫る必要があり、運営するにあたっては非常に難度が高いものとなっている。

あらためてマネジメントテキストを概観したが、今一度学校管理職にとってどのような内容がフィットするかについて議論を重ね、より実効性のあるプログラムとしたい。

3 研修の施行体制

各担当者の多大な尽力により、本年度は多くの試行の機会を得ることができた。それぞれの内容についてはⅢ第1章～第7章のとおりである。研修プログラムの内容と同じく提供する講師（ファシリテーター）の役割が非常に大きい。今回大学教員だけではなく現職の学校長も講師として研修試行を実施している。

講義形式の研修ではなく、受講者が取り組む課題の進行を支援するファシリテーターとしての役割を前に立つ講師が行う。受講者の課題に取り組む姿勢や課題そのものの理解度、またはグループによる力学形成など全て一様ではない。この変数の多い状況に対して適宜対応することが本プログラムの講師には強く求められる。プログラムを進めながら数十人の受講者の状況を把握し、対応することは簡単なことではない。勢い時間内に全てのプログラムを終わらせなければという機制が講師に働いてしまい、受講者の気づきに繋がらないことも見受けられた。

各講師は、テキストの検討段階から各演習の内容を吟味し、その意図についても議論を重ねてきた。もともとが優秀な教員等であり、教えることに長けている人材ばかりである。よってクラスとしてまとめ、気持ちの良い研修として終わることのできたところばかりであった。ただし、本人にとって、意識変革が起こり、その後の行動変容が起きるような影響をあたえることができたかどうかとなれば話は別である。

本事業で提供する研修によって、受講者にどこまでの変化を引き起こしたいかというゴールについて、研修を担当する講師によって違いがあったかもしれない。ここについては議論を深める必要がある。

4 成果と課題

これまで数多くの試行という実績を積み重ねてきており、それなりの評価を得ることができている。テキストに関してもメンバー各人の尽力により各種コンテンツができあがりつつある。実際に講師として前に立ち、本プログラムを提供して初めてみえてくる課題もそれぞれあったであろう。これまでは、教育行政幹部向けのプログラム内容を説明するメンバー、それを解釈するメンバーとなっていたが、今後は全てのメンバーがプログラムに関して意識をもち、最適なものにするための議論をする状態になったのではないだろうかと考えている。

プログラムの時間配分、1開催あたりの受講者人数、各プログラムの関係性といった課題はそれぞれ問題として挙げられているが、一方で研修を開催するにあたっての制約条件も大きいことから全てを理想通りに進められるとは考えていない。ここを論ずるには、研修のゴールをどの様に設定するかが決められていることが重要である。ここを抜きにして時間が短いとか長いとかの議論は無意味である。講師（ファシリテーター）の役割を全うするためには1クラスあたり20名が限界である。しかしながらどうしても40名以上のクラスにしなければならないかもしれない。その際は講師の役割設定を変更する必要がある。ここのあたりの議論もしっかりと深めていきたい。

今後、いよいよそれぞれの場所において管理職研修として提供するためには明確にしておくべきことは、やはり研修を通じて学校管理職にどのようなになってもらいたいということである。マネジメントの順序性を理解してもらったとして、その後学校管理職にどのような変化を期待するのであるだろうか？今我々が認識している学校管理職の問題状況は他に

もっとあるのか、それとも想定範囲内なのか？教育改革によるこどもへの教育方法や内容の変化が教職員をあずかる学校管理職にどのような影響を与えているのかについて議論を一層深め、メンバーの意識を共有し、本研修コンテンツと運営についてより確かなものへと進化させていきたい。

(毎野正樹)

おわりに

本研究会は、報告書冒頭で述べている考えを基本に、テキストを計画的に開発してきた。同時に、このテキストを実施するための講師の育成も行ってきた。本テキストを使って管理職研修を実施している自治体は、すでに1道4県、1政令市、2中核市と広がりを見せてきている。今後更に展開を見据えると、1テキスト3時間というプログラムであるが、それぞれの自治体において、もう少し短時間で実施したいという要望を受け、今年度は時間を短縮して行う試行を行ったが、実施者としては、テキストのメッセージが伝わったか、という点で時間を短縮して行うことは躊躇わざるを得ない。一方、実施する自治体としては、短い時間で実施することを望む傾向があり、多くの時間を必要とすることに、実施の難しさがあるのも事実である。

また、テキストの全体像としては、報告書の資料にもあるように、管理職に必要な行動を、「対課題行動」と「対人行動」に分けて考えており、テキスト想定数はそれぞれ6テキスト、計12テキストである。本研究は未だ「対課題行動」4テキストを開発した段階である。引き続きテキストの研究開発と実証実施の必要性を痛感する。

管理職という、いわゆる一般の教諭とは明らかに職務の異なる職の、入り口に当たる部分での研修は極めて重要な問題である。高度化複雑化する学校現場をマネジメントする管理職の学び直しとしては、時間を十分かけてもかけ過ぎることはない。今後より多くの自治体の本テキストを使って管理職研修を実施することを期待したい。

【参考資料】

新しい時代に対応する

学校管理職マネジメント研修会
～校長のリーダーシップ～

講義・演習 テキスト

スクールリーダーのための

課題解決スキル

兵庫教育大学

新時代対応学校管理職マネジメント研究会

目次

～ケース本文～

●現在の状況	3
--------	---

～補助資料～

1 校区内の状況	6
2 学級編成・校舎配置	7
3 教職員の人事管理	7
4 教職員の情報及び校務分掌について	8
5 生徒数の概要	9
6 学校経営方針	10
7 平成26年度年間行事実施状況	11
8 小中連携	11
9 学校評価等	13
10 施設・設備の管理	13
11 全国学力・学習状況調査の結果から	15
12 その他資料	17

～ケース本文～

●現在の状況 『朝日南中学校着任前後の動き』

(10月10日)

加東県内にある由井市外の大規模校に教頭として勤務していた谷口教頭は、教頭8年目で、今の学校は3校目である。10日の午前中、突然、校長室に呼ばれる。

「途中人事の異動予告があります。あなたに、10月20日付で“由井市立朝日南中学校”の校長として赴任してもらうことになりました。現在、朝日南中の校長である山中校長が急病で倒れ休職することになり、直接引き継ぎもできない状況のようです。」と校長から伝えられる。

来週早々に朝日南中に出向き、原川教頭から、山中校長からの伝言等を聞き、引き継ぎを受けるよう指示があった。

(10月14日)

連休明け早々、朝日南中学校に、朝一番で出向く。校長室で、原川教頭から山中校長の伝言を伝えていただいた。

朝日南中学校の行事等における生徒の良さや部活動で結果を残すだけの頑張りが見られるなどの特色、続いて、本校の課題である学習面の問題について話を聞いた。学力については、全国学力検査の結果を基に話を聞いたが、全体的にどの教科も全国平均、県平均に比べ、かなり厳しい状況であった。

前任校長としては、本年度後半から次年度に向けて、学習面に力点を置いてほしいとのことであった。

また、原川教頭は自身の見解も校長の伝言に加えて話してくれた。10年前のかなり荒れた頃に比べると、生徒指導上、確かに問題発生件数など改善されてきているところもあるが、校内外を含めて問題がないわけではないとのことである。教職員の指導の在り方も含め、学習以前の生徒指導の対応が今後の最重要課題ととらえているようである。さらに、教職員やPTA、地域の状況等について、原川教頭の主観となる部分もあったが、準備してもらった資料を基に話を聞くことができた。

教職員については、指導力に問題を抱えていたり、精神疾患による休職歴のある教職員もいるが、中堅、若手が多い年齢構成で、全体的に雰囲気は明るくなってきているようであった。

PTAは、本年度はかなり協力的な雰囲気があるとのことであった。PTA会長のリーダーシップもあり、学校との話し合いもよくなされて相互理解が進み、学校との連携が図られているようである。過去には、学校との信頼関係が崩れてしまったときもあるようであった。

地域については、何かあれば苦情も含めて、学校に連絡してくれる人が多いようであった。区長の中には、幾分、学校に批判的な方もおられるが、強いリーダーシップを図る区長会長のおかげもあり、学校とのやりとりはスムーズなようであった。

オープンスクールや学校支援会議を通じて、相互の情報の共有や相互理解の機会はつくられており、特に、毎月行われる学校支援会議における意見交換は、現状把握と今後の方策を検討する貴重な場となっているようである。

(10月20日)

いよいよ着任の日である。朝、7時30分に教頭、教務主任と、本日の流れや当面の予定について打ち合わせを行う。8時、職員室にて、全職員と初めて顔を合わせ、あいさつを行った。

1校時に、企画委員会を行い、各学年、各校務分掌の状況を主任から資料をもとに概略の説明を受け、現状を把握する。各学年とも、問題行動が発生している状況はあるものの授業において、指導が通らない場面は全体的には少なくなってきたようであった。ただ、一部の教員に対して、反抗的な態度をとる生徒がおり、落ち着かない教科の授業も見られるようである。学級崩壊している学級はないとのことであった。

校務分掌関係は、各部とも計画的に行事運営の企画、立案、実施ができてきているようであるが、実施後の反省が十分なされず、翌年に向けての改善や関係している年度内の行事への反映が不十分なようであった。

2校時は、短時間ずつではあるが各クラスの授業を見て回る。確かに学年によっては、生徒指導主事から報告のあったとおり、授業中に落ち着かない雰囲気の見受けられる。気になるのは、同じ状況でも、注意を「する」、「しない」教師がいることであった。

3校時は、事務長と予算執行状況や、事務からみた朝日南中学校について話を聞いた。先を見通して、計画的に準備のための購入相談等に来る先生もいれば、いつも場当たりの購入希望を言う先生もいるとのことであった。施設管理については、生徒の器物損壊などの対応も含め、原川教頭との連携が十分とられているようであった。

4校時以降は、原川教頭を始め各主任等が準備してくれた資料や本年度4月からの各種資料に目を通す時間とした。

着任当日ではあったが、夜は、PTA三役と顔合わせを行った。PTA三役の方々は、前校長が急な病気での休職ということもあり、基本的に学校へのバックアップに積極的であった。特に、PTA会長は、学校正常化に向けて、「今が正念場だ」という意識を強くもっておられるようであった。

(10月21日)

2年生の弁論大会が、午前中、行われたが、発表する生徒は真剣に発表する姿が見られたが、聞く生徒の中には、寝転がっていたり、私語をする姿も見られた。弁論大会中に生活ノートに目を通して職員や指導しようとする姿勢の見られない職員がみられた。学年主任を中心とした学年体制の在り方にやや不安を感じた。

授業のあいている主任の先生方を校長室に呼んで話しを聞いていく。気になった2年の学年主任とまず話をすることにした。学年主任は、昨年からの持ち上がりであるが、昨年、3年学級担任で、生徒指導の疲労から精神疾患で休職していた職員が年度初めに復職し、この学年に副担任で所属しており、「あれはしない」「これはしない」の要望が多く、まわりの職員とのコミュニケーションがとれないとのことであった。まわりの職員のやる気をそぐことも多く、3年生から2年生に生徒会が引き継がれ、2年生が学校を引っ張っていかなくてはならない時期に、かなり厳しい状況があるようであった。それでも、若手職員が頑張ろうと声を掛け合っている様子も見られるとのこと、この学年には、気をとめておく必要があると強く感じた。

(10月22日)

朝日南中学校に進学してくる朝日小学校、桜ヶ丘小学校を訪問し、各校長と情報交換を行った。二人の校長とも、「小学校の時は、結構ちゃんとしているんだけど・・・」と話す場面もあった。

小中連携の必要性は理解しているものの、小中それぞれに学校の事情が前面に出ており、実体を伴った小中連携はなされていないようであった。

(10月23日)

由井市の商工会役員でもある同窓会長を訪ねた。同窓会長は、歴代PTA会長を代表するとともに、由井市の商工会会長をつとめるなどいわゆる“由井市の顔”となる人物である。同窓会長は、朝日南中学校のここ10年近くの荒れを憂慮しつつも、「今後の由井市を引っ張る人材の育成に学校は頑張ってもらいたい」という熱い思いを語られた。また、「若い世代も多い由井市であり、学校は、目の前の子どもの育成だけではなく、地域に貢献できる活動も今後は、是非、取り入れてほしい」とも話された。

(10月24日)

何かとお世話になる関係機関へのあいさつ回りを行った。

まず、いくつかの事案もある警察署。生活安全課の少年係長と話をすることができたが、この1～2年は、朝日南中学校の関わる事案は減ってきていることや商店街等から警察への直接の苦情や通報は、かなり少なくなってきたと聞かされた。

次に、校区内の自治会長を訪ねた。自治会長は、今年で3年目とのことであったが、生まれも育ちも由井市という生粋の由井市民である。「この町のためなら」という思いから非常に強いリーダーシップを発揮されているのがよく伝わってきた。

(10月25日・26日)

この地域では一番の祭りでもある「由井神社の秋季例祭」が行われた。今年は、ちょうど週末と重なったため、学校を休みとすることはなかったが、地域の大きな文化的行事で、地域の方々はもちろんであるが、生徒、保護者の多くが参加していた。

祭りに参加してみると、学校ではいい加減な授業態度の男子生徒が、真剣な表情で大人と御輿を担ぎ、頑張っている姿も見られた。

参加している地域の方々とも話をすることができ、古き良き伝統を守り地域を大切にしていこうとしている方が年齢を問わず多いことに気づかされた。

(10月27日)

着任2週目に入る。先週一週間の内に、教職員やPTA役員、関係者と短い時間ではあったが話すことができ、ようやく今後のことを考えることができる時間ができた。

今週中には、オープンスクールや学校支援会議も行われる。朝日南中学校に着任した校長としての学校運営方針等を話す機会ともなる。

～補助資料～

1 校区内の状況

校区は、由井市南西部に在る。小学校区では、由井市立の朝日小、桜ヶ丘小の2校が朝日南中学校となる。なお、由井市立小学校は69校、中学校は35校ある。

校区は、住宅街と田園地帯が混在するほか、ヒヤープ電工とその関連会社が連なる工場地帯がある。但し、リーマンショックの影響により、ヒヤープ電工由井工場は2010年に規模の縮小が図られた。

校区内に、大型ショッピングセンターが開店（2004年）、それに伴いJR由井線に「朝日リバーサイド駅」が開業したため、周辺校区ではますます宅地・住宅開発が進んでいる。

新しい住宅地に比較的若い世代の世帯が入ってきていることもあってか、由井市全体に対しても年齢構成率は、現在のところ若干、若い傾向にある地域である。

校区は広い（朝日南中を起点にもっとも遠い地区で約3.5km）が、全員徒歩通学である。また、大きな「祭」を開催する地域でもある。校区内の「由井神社」の秋季例祭は、この地区では最大の氏子数を抱える祭りであり、提灯練りが有名で由井祭とも呼ばれている。平成10年には加東県指定無形重要文化財に指定されている。毎年秋に2日間開催される。神輿3台。屋台18地区、壇尻4地区、獅子舞1地区、提灯練り7地区の30地区が参加する。（例年一日目の午後と二日目は「地域の文化的行事参加」のため休業日としている。）

校区	人口	～14歳	15～64歳	65歳～
朝日小	5,451	896	3,234	1,321
桜ヶ丘小	6,463	917	3,880	1,666
合計	11,914	1,813	7,114	2,987

由井市 全体	284,066	40,771	160,419	82,876
-----------	---------	--------	---------	--------

由井市総務局総務部情報政策課（H25.9.30）発表

2 学級編成・校舎配置

(学級)

第1学年 5クラス
 第2学年 5クラス
 第3学年 5クラス
 特別支援学級(知的) 1クラス
 特別支援学級(情緒) 1クラス

(校舎配置)

第1学年 1階
 第2学年 2階
 第3学年 3階
 特別支援学級 1階

※ 生徒指導上の配慮から他学年の階への立ち入りは禁止している。

※ トイレの使用についても学年別に場所を指定している。

3 教職員の人事管理(9月末現在)

① 職員数

その他、SC1名、ALT1名

	校長	教頭	主幹 教諭	教諭	臨時 講師	非常 勤	養護 教諭	事務 職員	校務 技師	合計
男	1	1	1	16	2				1	22
女				9	2		1	1		13

*上記の内加配教員は、生徒指導1、少人数指導3

② 学年組織

	校長・ 教頭	主幹 教諭	担任	特支 担任	学年 所属	非常勤	養護 教諭	事務 職員	校務 技師
1学年			5		4				
2学年			5		4				
3学年			5		4				
学年外	2	1		2			1	1	1

③ 年齢構成

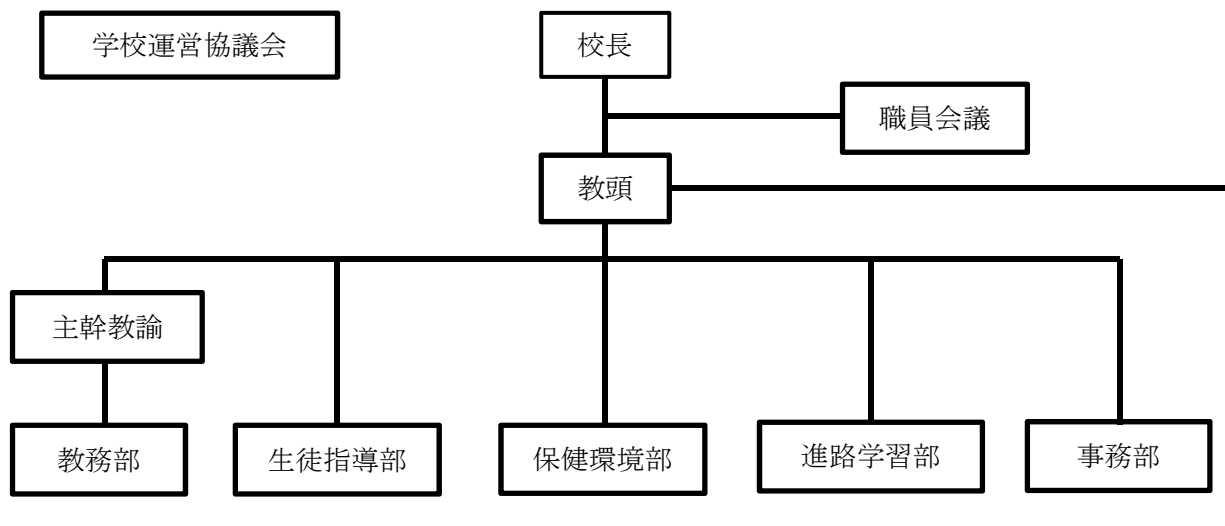
	20代	30代	40代	50代	計
男	7	6	4	5	22
女	3	4	2	4	13

4 教職員の情報及び校務分掌について

① 教職員の情報

	職名	氏名	年令	性別	勤続年数	学年部	所持免許	主な分掌	備考
1	教頭	原川 規生	52	男	2	学年外	数学	地域連携	
2	主幹教諭	加賀 幹宏	45	男	1	学年外	音楽	教務	
3	教諭	栗原 禮子	58	女	5	1学年主任	英語	1学年主任	
4	教諭	鷺見 章雄	56	男	4	2学年主任	理科	2学年主任	
5	教諭	藤巻 栄二郎	53	男	7	特別支援	保体	情緒学級	
6	教諭	粕谷 準	53	男	2	3学年主任	保体	3学年主任	
7	教諭	山川 晴子	50	女	2	特別支援	音楽	知的学級	
8	教諭	羽田 令子	48	女	2	3年副任	国語	進路指導	
9	教諭	伴 亨敏	46	男	3	2年1組	理科	施設設備	
10	教諭	松浦 正	43	男	7	3年5組	保体	生徒指導	
11	教諭	角田 よし子	43	女	6	2年副任	英語	道徳指導	
12	教諭	梶野 祥仁	38	男	2	3年1組	社会	PTA	
13	教諭	青嶋 より	37	女	1	3年3組	国語	図書館	
14	教諭	湯川 君代	36	女	3	2年4組	社会	研究主任	
15	教諭	田淵 哲功	35	男	6	1年副任	技術	情報教育	
16	教諭	田畑 浩志	35	男	5	2年2組	国語	特別活動	
17	教諭	国島 昭雄	34	男	2	1年2組	数学	学級指導	
18	教諭	田村 顕士	33	男	3	1年1組	英語	国際理解	
19	教諭	千本 陽美	33	女	6	1年3組	数学	学習指導	
20	教諭	金山 敏広	31	男	3	2年3組	社会	生徒会	
21	教諭	坂倉 麻由	29	女	2	3年4組	理科	教育相談	
22	教諭	三輪 淳	29	男	2	2年5組	英語	人権同和	
23	教諭	上野 洋章	28	男	1	1年4組	美術	広報	
24	教諭	竹村 郁文	25	男	3	3年2組	数学	総合学習	
25	教諭	松橋 光宏	25	男	3	1年副任	数学	教科書	
26	教諭	中村 英和	23	男	1	1年5組	理科	環境教育	
27	教諭	庄司 宏美	23	女	1	2年副任	保体	部活動	
28	講師	奥田 時雄	29	男	1	3年副任	国語	防災指導	
29	講師	海野 文夫	27	男	1	1年副任	保体	清掃指導	
30	講師	中尾 美鈴	27	女	1	3年副任	家庭	食育指導	
31	講師	長浜 敦子	23	女	1	2年副任	音楽	学籍	
32	事務職員	奥谷 彩代	55	女	4	学年外		学校事務	
33	養護教諭	岩室 沙由里	48	女	2	学年外		保健主事	
34	校務技師	木上 和昭	49	男	3	学年外		学校用務	
35	S. C	江川 亜矢	41	女		学年外			
36	ALT	ニコラス・ポント	38	男		学年外			

② 校務分掌等



各種委員会（※企画委員会は校長、教頭、各主任、他必要に応じて）

企画委員会（毎月） 生徒指導委員会（適宜） いじめ対応チーム（適宜）
 生徒指導連絡会（毎週） 不登校指導連絡会（毎週） 学力向上対策委員会（適宜）
 小中一貫教育推進検討委員会（毎学期） 道徳・人権指導委員会（毎学期）
 学校保健委員会（年1回） 食育・給食推進委員会 特別支援教育委員会（学期1回）
 心の教育推進委員会（学期1回以上） 学年組織検討委員会（年度末）
 校務分掌検討委員会（年度末） 予算委員会（年2回） 労働安全衛生委員会（毎月）
 情報管理委員会（学期1回） 食物アレルギー対応委員会（適宜） 学校業務改善対策委員会（適宜）

5 生徒数の概要

① 2014年度の生徒数

			学級数	男	女	計	学年総計
1年			5	93	89	182	186
2年			5	87	109	196	198
3年			5	98	92	190	193
特別支援学級	知的	1年	1	1	1	4	
		2年		1			
		3年			1		
	情緒	1年	1	1	1	5	
		2年		1			
		3年		1	1		
計		17	283	294	577		

② 生徒数の推移

年度	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014
生徒数	526	575	547	534	527	556	565	535	501	549	577

年度	2015	2016	2017	2018	2019	2020
生徒数	568	564	553	549	541	531

6 学校経営方針

校訓	<p>自主（じしゅ） —自分の考えをしっかりと（正しく強く）</p> <p>協同（きょうどう） —相手の立場を考えて行動しよう（仲良く力を合わせる）</p> <p>創造（そうぞう） —自分の生活をきり拓く力をつけよう（よく考え工夫する）</p>
----	--

平成 26 年度 学校経営方針

学校教育目標

ふるさと由井市を愛し、ふるさと由井市の未来を担う、豊かな人間力と確かな学力を身につけた生徒の育成

〔目指す学校像〕

- ① 生徒、教師などすべてのひとが「輝く」学校
- ② 地域や保護者から信頼される学校
- ③ 思いやりにあふれ規律正しい学校

〔目指す生徒像〕

- ① 夢に向かってチャレンジする生徒
- ② 自分を大切にし、他人や自分の所属する集団
 - ・仲間を大切にできる生徒
 - ・他の意見に耳を傾け自己変革をしようとする生徒

〔目指す教師像〕

- ① 教育に対する愛情を高め続けられる教師
- ② 生徒の心に寄り添い、保護者の思いに心を寄せられる教師
- ③ 教えるプロ、育てるプロとして専門知識・識見を有し、実践できる教師

〔重点目標〕

【知】

自学力を身に付けた生徒の育成
 (具体的取組)
 学び合い学習とノート指導
 学習習慣・学習環境の確立
 分かる授業の研究と実践

【徳】

命を大切にする生徒の育成
 (具体的取組)
 全領域での「耕心」の取組
 心通う集団づくり
 道徳の時間の研究と実践

【体】

心身ともに健康な生徒の育成
 (具体的取組)
 健全な生活習慣の確立
 部活動の推進
 防災・安全教育の実践

つながり 縦のつながり、横のつながりを意識した指導
やってみよう 「することによってしか見えてこないものがある」ことを意識した指導
自治能力 よりよい集団づくりを通して個の成長を促すことを意識した指導
環境 物的・人的環境が人の成長に大きな影響を及ぼすことを意識した指導
自立と自律 学校を離れたときの生徒の姿を意識した指導

7 平成26年度年間行事実施状況

4月	着任式 始業式 入学式 対面式 実力考査(2・3年) 入学考査(1年) 身体計測 新入生歓迎行事(生徒会) 修学旅行(3年) 保健関係検査 自然教室(1年)
5月	小中一貫教育合同部会 授業参観・P T A総会・学年・学級理事会 家庭訪問 開校記念日 保健関係検査 実力考査(3年) 学校運営協議会 教育実習 朝日南中セミナー
6月	町別懇談会 保健関係検査 教育実習 計画訪問 愛護育成会総会 校区人権 期末考査 教育相談 学校水泳開始 避難訓練 生徒会選挙
7月	部活動壮行会 市総体 保護者会 終業式 地区総体 県総体
8月	校内研修 第1回人権のつどい ブロック総体 全国総体 愛護育成会補導
9月	始業式 実力考査 体育大会
10月	中間考査 地域の社会的行事 由井市人権教育研究会 弁論大会(2年) 愛護学習会 オープンスクール
11月	進路説明会(3年) 愛護学習会 避難訓練 実力考査(3年) 期末考査 文化発表会 職業体験(2年) 学校保健委員会 同和教育研究大会 学校運営協議会 少年の主張地区大会
12月	実力考査(3年) 終業式 人権のつどい 生徒会選挙 保護者会 総合学習発表会
1月	始業式 実力考査 保護者会(3年) 防災教育実施 私立高校入試 オーケストラ体験教室
2月	私立高校入試 就職選考 期末考査 学校運営協議会 学校保健委員会 入学説明会 公立高校推薦入試 避難訓練
3月	卒業生を送る会 就職生激励会 卒業式 公立高校入試 保護者会(1・2年) 小中連絡会 終業式 離任式

8 小中連携

由井市の小中一貫教育は平成21年度にスタートし、平成23年度からは「現行制度の運用上の取組の中で、小中学校の教職員が連携を深め、義務教育9年間を見通した視点での子どもの『育ち』と『学び』の適時性と連続性を重視した教育活動を、校区の特色を生かしつつ行っていく」として、各中学校区を1ブロックとし市内全35ブロックで推進している。

朝日南中ブロックにおいても、小中一貫として下記のような取組を進めている。頑張っている部会は担当の教師を中心に、一生懸命、取組を進めている。ただ、何のために、何を目指してやっているのかという部分が、全職員に浸透しきっておらず、個々の(各部会の)表面的な活動に終始している。

結局、「連携的な活動をする」という手段が目的となってしまう感がある。由井市の掲げる目的に達するためにはさらなる取組(教師間の意識の共有・連携)が必要であると思われる。

【朝日南中ブロック小中一貫教育一を目指す子ども像】

- ・挨拶などのマナーをしっかりと身につけ、正しく判断して行動できる子ども。
- ・確かな学力を身につけ、自ら学び、共に伸びる子ども。

① 平成26年度 年間行事予定 (小中一貫教育関係)

月	主な取り組み	月	主な取り組み
4月	合同あいさつ運動 (毎月10日)	10月	出前あいさつ運動
5月	推進委員会・合同部会 授業参観 (小→中) ・小中連絡会	11月	文化発表会・音楽会参観 出前授業 (英語)
6月	出前あいさつ運動 出前授業 (英語)	12月	小中合同特別支援学級交流会
7月	部活動交流 (陸上)	1月	特別支援学級授業見学
8月	職員研修 (小中合同) 職員研修 (特別支援教育) 職員研修 (カウンセリングマインド)	2月	入学説明会 出前授業 (英語) 出前あいさつ運動 推進委員会
9月	推進委員会	3月	授業参観 (中→小) 小中連絡会

② 平成25年度 活動報告

1 小中連携目標による基本的な生活習慣の定着をめざして

(1) みそあじ運動

- み：身だしなみを整える
- そ：そうじを一生懸命する
- あ：あいさつをきちんとする
- じ：時間を守る

朝日南愛護育成会の共通目標をもとに、基本的な生活習慣の確立をめざしている。

(2) あいさつ運動

- ア 小中連携した教職員によるあいさつ運動
毎月10日に小中合同であいさつ運動を展開

イ 出前あいさつ運動

中学校の生徒会役員や部活動のキャプテンなどが、学期に1回小学校に出向き、校門前であいさつ運動を行っている。

2 小中の連続した教育をめざして

(1) 英語科

小学校の外国語活動を支援し、中学校の英語教育につながるよう中学校の英語科教師による出前授業を行っている。

(2) 道徳

地域教材の開発をめざして、講師を招聘し、小中合同で研修を持った。2度にわたる合同研修を経て、郷土を愛する心を育てる教材開発を行った。

(3) 生徒会活動

新入生及び保護者への入学説明会で、スライドショーを用いた学校紹介を行い、中学生活への不安や疑問の解消に努めた。

(4) 合同職員研修

夏休みには、合同研修会で「由井検定」を体験し、由井市の小中の連続した教育について学んだ。学力の向上に向けて、共通の取組を模索する機会になった。

3 部活動での交流

中学校の吹奏楽部が、小学校スクールバンドとの合同演奏会や子ども会、小学校行事での演奏協力を行った。陸上や水泳、その他の部活動に小学生が交流し、共に活動することができた。

4 特別支援教育の連携

恒例になっている特別支援学級の交流会が、平成25年12月12日に行われ、中学生の司会進行で楽しい催しが営まれた。特別支援教育では、日頃からの交流と共に小学生の学校見学や授業見学を随時行っており、互いの児童生徒理解を深める場になっている。また、各校の研修会に互いに参加し、発達障害等に関し研修も進められている。

9 学校評価等

学校関係者評価委員会を7月、11月、2月の年3回、学校運営協議会も兼ねて実施している。なお、学校関係者評価委員会のメンバーは、学校運営協議5名と地域の団体の代表等3名、PTA会長・副会長3名、校長教頭2名の計13名で構成している。

生徒、保護者、教師による授業評価や学校評価を学期ごとに行い、学校関係者評価委員会での分析等も踏まえ、その都度公表している。

平成25年度の状況の中では、特に授業の充実を望む生徒・保護者の声が多く聞かれるとともに、教師からは家庭学習の充実の必要性が強く出されていた。学校関係者評価委員会の中では、ここ数年かなり生徒指導の状況は改善しているものの、より一層の心の教育の充実を図った上での学力の向上に向けた取組の必要性について指摘があがっている。

10 施設・設備の管理

(1) 環境整備計画と整備状況について

昭和56年に竣工した校舎も築33年を経過し、これまでは改修で対応してきたが来年度から校舎改築に着手することとなっている。開校以来、段階的に施設設備の改善を図ってきたため、老朽化の度合いに差があるのが課題となっていたが、改築により改善される見込みである。平成15年に大規模改修を終えた北館西半分等は改築対象ではなく改築整備後も併存される。平成22年のグラウンド改修、平成17年のプール竣工と体育施設については整備が一段落している状況にある。

(2) 施設・設備等の営繕と管理について

直接的な営繕・管理については、教頭、事務職員、校務技師の連携・協力により速やかな対応等を実施。問題行動等による破損については、状況把握を十分に行い、生徒指導部とも連携を図った対応を実施。学校が荒れた時期には「割れ窓理論」を念頭に営繕対応を積極的に行うことで環境整備を図ってきた。改築を好機と捉え、予防的な環境整備から、学習環境の整備へ展開すべき段階かもしれない。

(3) 防火管理・防災管理について

防火管理者は教頭がつとめ全職員で自衛消防組織を編成し防火・防災に対応している。避難誘導訓練や安全点検は計画通り行えている。一方、消火設備の老朽化している箇所があること、一部生徒による消火器等設備へのいたずらや破損に対して指導を続けている。

(4) 校舎の戸締まりについて

戸締まりの管理も教頭が指揮している。校務技師が勤務時間終了前に戸締まりするが、部活動などがあるため、生徒の下校後に教頭と残っている職員で戸締まりを確認している。生徒の下校も遅れがちで、指導上・防犯上の課題と言える。学校施設開放の業務も教頭が担当している。地域の諸団体との関係は比較的円滑である。

(5) 諸会計の執行について

公費、私費ともに、予算委員会において協議し、それぞれの担当が執行している。

【公費】

配当予算、補助金、委託金からなる。公費は、事務職員が中心になって執行計画を立て、各担当と連携しながら、執行している。由井市の会計規則に基づき執行する。予算全体が厳しい状況にある。

【私費】

私費に関する取扱規程は、市の規程はなく、校内の規程のみであり、それに基づき執行されている。集金計画など全体の概要は予算委員会で確認されているが、執行管理の実質は、各担当任せになっているのが現状である。

給食費、学年会計ともに、全ての学年に滞納がある。兄弟関係のある家庭もあり、その中には就学援助費受給家庭も含まれている。

(引継書作成日現在の滞納家庭：1年8人、2年6人、3年5人)

(6) 備品の管理について

「由井市立小中学校備品管理システム」を用いて、事務職員がデータ管理を行っている。一年に一度（主に長期休業中）、現状確認のため、全職員で備品点検を実施する。

通常の使用に際しての管理は、一般備品は、教頭・事務職員、教科備品は、各教科担当とし、補充、修繕などが生じた場合の管理は事務職員が行っている。

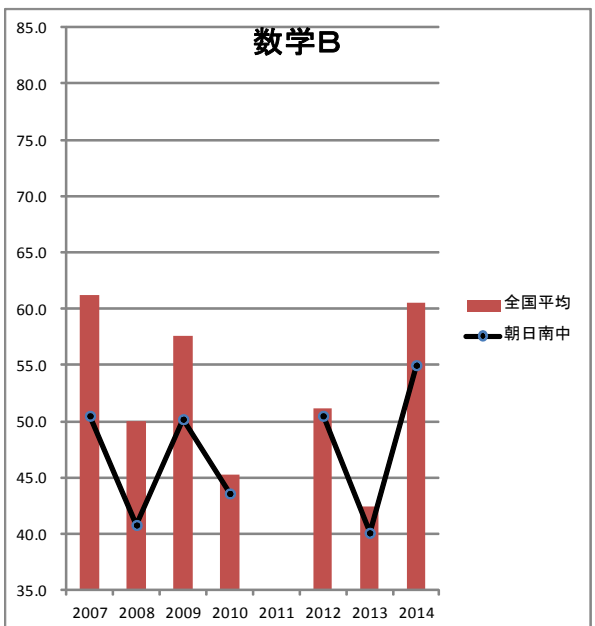
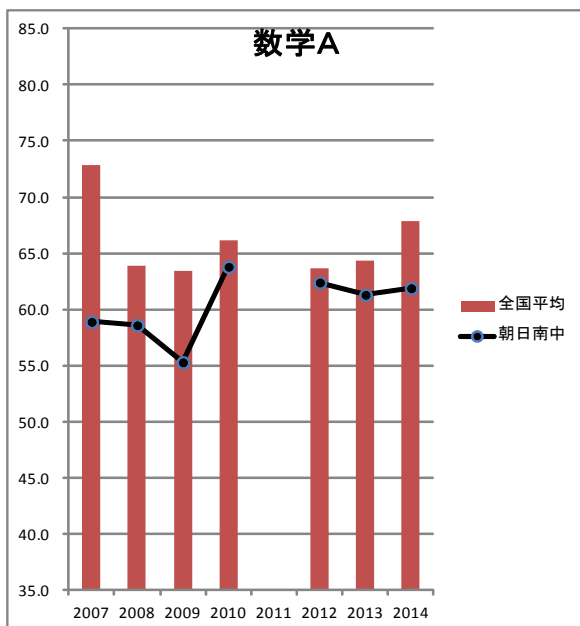
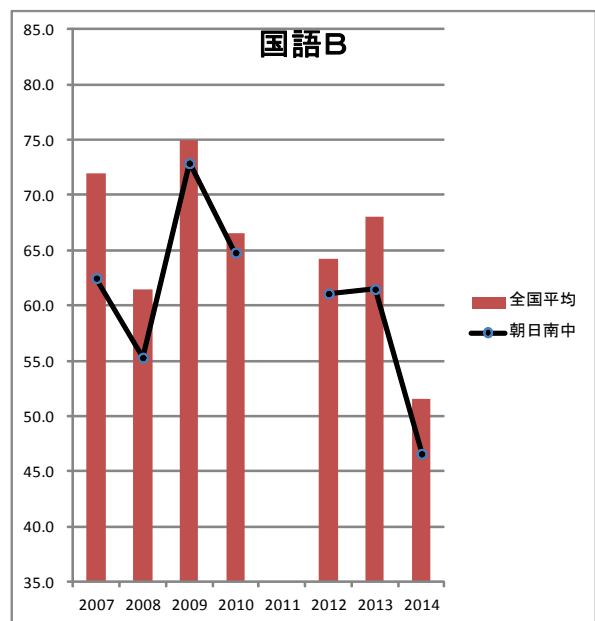
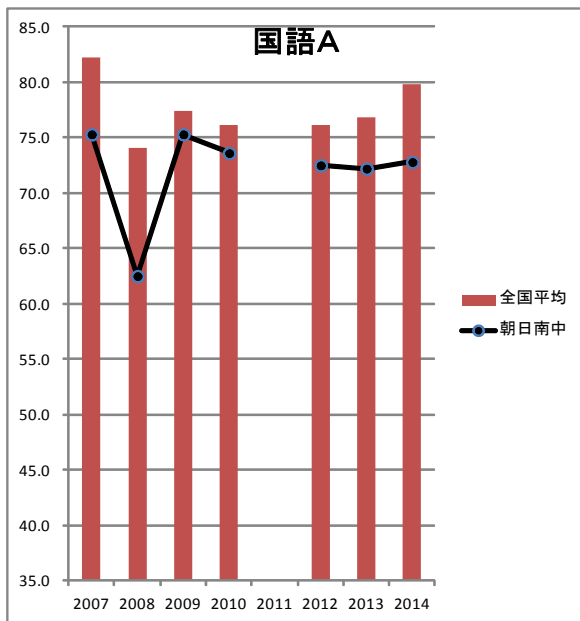
11 全国学力・学習状況調査の結果から

○全国学力・学習状況調査のデータ

○【中学校】全国学力・学習状況調査のデータ

全国平均					
年度/科目	国語A	国語B	数学A	数学B	
2007	82.2	72.0	72.8	61.2	悉皆
2008	74.1	61.5	63.9	50.0	悉皆
2009	77.4	75.0	63.4	57.6	悉皆
2010	76.1	66.5	66.1	45.2	抽出
2011					中止
2012	76.1	64.2	63.6	51.1	抽出
2013	76.8	68.0	64.3	42.4	抽出
2014	79.8	51.6	67.9	60.5	悉皆

朝日南中学校					
年度/科目	国語A	国語B	数学A	数学B	
2007	75.3	62.5	58.9	50.5	悉皆
2008	62.5	55.3	58.6	40.8	悉皆
2009	75.3	72.9	55.3	50.2	悉皆
2010	73.6	64.8	63.8	43.6	抽出
2011					中止
2012	72.5	61.1	62.4	50.5	抽出
2013	72.2	61.5	61.3	40.1	抽出
2014	72.8	46.6	61.9	55.0	悉皆



○特徴的な項目（市・県・全国平均との比較） ※文言は多少要約しているものもあり

<p>全て 上回り傾向</p>	<p>25. 家の手伝いをしているか 37. 地域の行事に参加しているか 44. 学校のきまりを守っているか</p>
<p>全て 下回り傾向</p>	<p>6. 自分に良いところがあると思うか 30. 家で学校の宿題をしているか 31. 家で、学校の授業の予習をしているか 32. 家で、学校の授業の復習をしているか 35. 学校に行くのは楽しいと思うか 48. 授業でグループの調べ活動をしているか 49. 授業で発表の機会があるか 50. 授業で話し合い活動をしているか 54. 国語の勉強は大切だと思うか 55. 国語の授業の内容はよくわかるか 56. 読書は好きか 57. 国語の学習は将来役に立つと思うか 58. 資料を読み、考えを書いたりしているか 59. 伝わるように発表の工夫をしているか 60. 理由が分かるように書いているか 61. 内容理解しながら文章を読んでいるか 73. 数学の勉強は好きか 75. 数学の授業の内容はよくわかるか 76. 数学ができるようになりたいか 77. 数学で諦めずに解き方を考えるか 80. 数学でもっと簡単な解き方を考えるか</p>

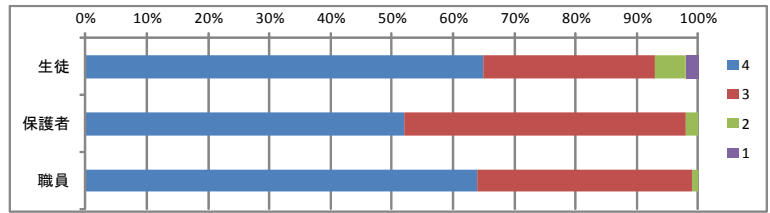
12 その他資料

学校評価の結果から（平成25年12月実施）

○教育活動アンケート

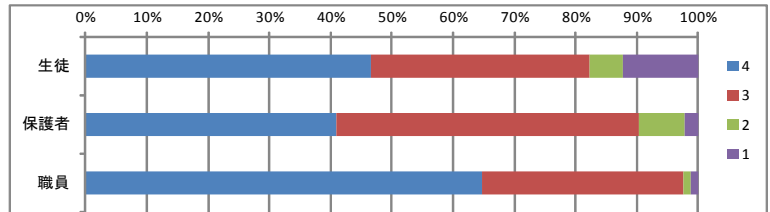
1 学校生活が充実していると思うか 数字は%

	4 そう思う	3 やや そう思う	2 あまりそう思 わない	1 そう 思わない
生徒	65	28	5	2
保護者	52	46	2	0
職員	64	35	1	0



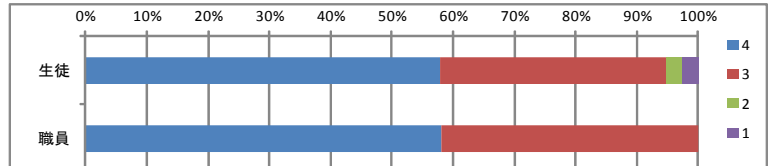
2 自分のよさが認められていると思うか 数字は%

	4 そう思う	3 やや そう思う	2 あまりそう思 わない	1 そう 思わない
生徒	42	32	5	11
保護者	38	46	7	2
職員	55	28	1	1



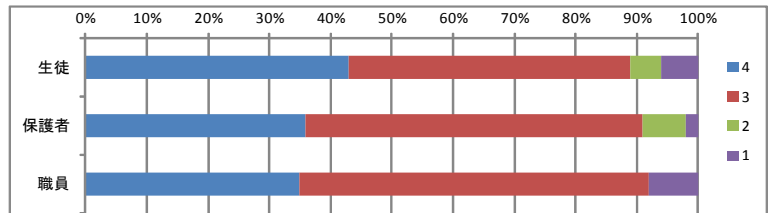
3 生徒同士で良さを認め合っているか。 数字は%

	4 そう思う	3 やや そう思う	2 あまりそう思 わない	1 そう 思わない
生徒	44	28	2	2
職員	58	42	0	0



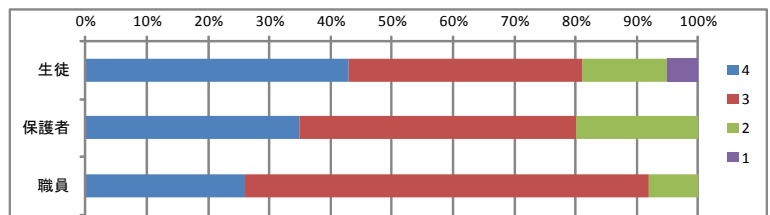
4 場に応じた言動ができているか 数字は%

	4 そう思う	3 やや そう思う	2 あまりそう思 わない	1 そう 思わない
生徒	43	46	5	6
保護者	36	55	7	2
職員	35	57	0	8



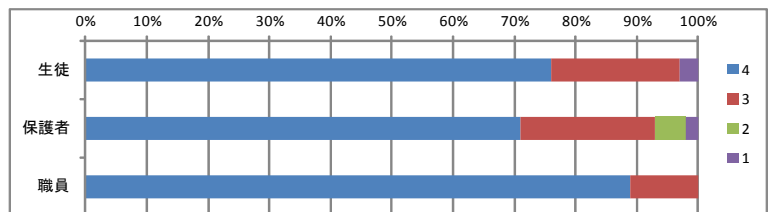
5 健康に気をつけているか 数字は%

	4 そう思う	3 やや そう思う	2 あまりそう思 わない	1 そう 思わない
生徒	43	38	14	5
保護者	35	45	20	0
職員	26	66	8	0



6 学校行事に進んで取り組んだか 数字は%

	4 そう思う	3 やや そう思う	2 あまりそう思 わない	1 そう 思わない
生徒	76	21	0	3
保護者	71	22	5	2
職員	89	11	0	0



平成25年度年末保護者アンケート（自由記述）

1 学校経営・教育課程について

- 3年間、楽しい学校生活を送ることができました。これも、先生方のおかげだと思っております。ありがとうございました。（3年）
- 毎日楽しそうに学校生活の話をする息子を、幸せな気持ちで見えていました。いつの日か母校に恩返しができるような人になってくれればと願っています。（3年）
- 中学校に入学して、あっという間の3年間でした。楽しかったこと、辛かったこと、様々な経験をして無事に卒業できること、大変うれしく思っています。先生方には常に熱心にご指導いただき、感謝しております。（3年）
- 担任の先生には3年間大変お世話になりました。いつも子どもの様子を気にかけてくださり、生活ノートのやりとりも、子どもにとってとても良いものだと思います。朝日南中学校の先生方には本当に感謝しています。（3年）
- 担任の先生の考えにより、各クラスの活動に差があることが気になりました。私の子ども担任の先生は、毎日お忙しい中熱心にご指導いただき、感謝しております。（2年）
- 日頃より、大変きめ細やかな指導をしてくださりありがとうございます。（2年）
- 身体も心も、のびのびと成長しているように感じられます。（1年）
- 1年間スムーズに中学校生活を送れたのは、温かく見守ってくださった先生方のおかげです。入学当時の不安が安心に変わりました。（1年）
- いつも、細やかな気配りとご指導をいただき感謝しております。（1年）
- 子どもの心を大切にしてくださるご指導に、感謝します。（1年）
- △ 3年 PTA 学年研修会（保護者向け講演会）の参加者が、少なすぎて驚きました。もっと関心のある内容に考え直した方がいいと思います。（3年）
- 学校行事では、子どもたちが自由に楽しめるよう規制を緩和して欲しいです。特に文化祭など、規則に基づいてしか参加できないオンステージは、おもしろ味に欠けるように思います。時には子どもたちを自由にさせてほしい。（2年）
- 学校行事には参加したいと思うのですが、小学校の行事と重なり参加できない時がありました。特に文化祭と小学校の運動会が重なってしまうので、どちらにも参加できるよう学校側も考慮していただきたいと思います。（2年）
- 学校の様子について、子どもを通してだけでは情報が少ないです。お便りはもちろんですが、ホームページをもっと更新して、情報や様子が分かるといいです。（1年）

2 学習指導について

- 毎日の宿題が多すぎると思います。（3年）
- 宿題の量が偏っていて、睡眠時間がしっかりとれない時があります。教科ごとで調整することはできないのでしょうか。（1年）
- 長期休業中に出される宿題について、解答を一緒に渡さないで欲しいです。考える力、調べる力を付けさせたいと思っています。（1年）
- 週に1回だけでもいいので、補習授業があるといいと思います。（2年）

- 学校を信用して子どもを託しておりますが、基礎的・基本的な部分が定着していないのが残念です。家庭でも塾でも補充はやっていこうと思いますが、やはり学校の授業が基本だと思いますので、しっかりお願いします。(1年)

3 生徒指導について

- 思春期で大変になってきましたが、学校でも厳しくご指導願います。最近の先生方は少し甘いのではないのでしょうか。(1年)
- 以前に比べ、学校内で生徒とすれ違う時、挨拶をしないように感じます。(3年)
- 生活指導の先生方は、しつこく怒りすぎだと思います。しつこく怒る先生は絶対に嫌われて、子どもも素直になれないと思います。(2年)
- 先生の発言や対応が、横暴すぎるように思います。子どもたちの態度にもよるのかもしれませんが、同じ目線で話してくれる先生が増えたらいいと思います。(2年)
- 先生方の言葉遣いが悪いように思います。特に、生徒を叱る時に傷つく言葉を使っているようですので気をつけていただきたいです。(2年)
- スマートフォンの使用にはいろいろと問題もあると思うのですが、家庭では完全に把握しきれない部分もあります。校則でスマートフォンの使用を禁止していただけると、問題もなくなると思っています。(3年)
- キッズ携帯(見守り携帯)くらいなら、防犯ブザー代わりににもなるので持たせても良いのではないのでしょうか。(1年)
- 学校周辺の細い道路で、横三人並んで歩いていたり、自転車で一旦停止せずに横断する光景を目にします。(3年)
- 暗闇での帰宅がとても心配です。(1年)
- 部活動での練習試合等、保護者の送迎が多すぎるように思います。小学校でのスポーツ少年団での活動と変わりません。(1年)
- 次年度のクラス替えに不安を持っています。特に女子は、いじめや中傷の言葉も増えてくると思っていますので対策をしていただきたいです。個人面談により、要望や相談に乗ってやって欲しいと思います。(1年)
- 中学生ともなれば親もなかなか子供の行動に目が届かないことも多いですが、夜遅くに外出したりすることに寛容な保護者がいることに驚きました。先生方だけでなく、保護者も子供ともっと向き合ってほしいです。(3年)

4 保健安全について

- 給食を、もう少し何とかして欲しいです。(2年)
- 給食があまりおいしくなくて、給食の時間が苦痛のようです。クラスで残食もあると聞いているのもつたいないと思います。(2年)

5 庶務管理について

- △教室にエアコンを設置して欲しいです。(3年)
- △今年の夏までには、各教室にエアコンの設備を整えていただきたいです。(2年)
- △校内の公衆電話の数を増やして欲しいです。(1年)

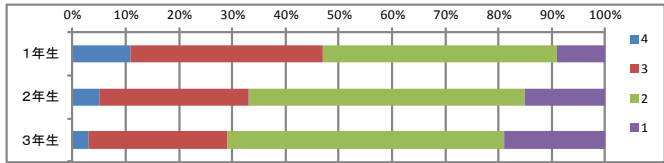
生徒学習アンケート調査結果（平成26年7月実施）

○学習アンケート

1 あなたは勉強が好きですか

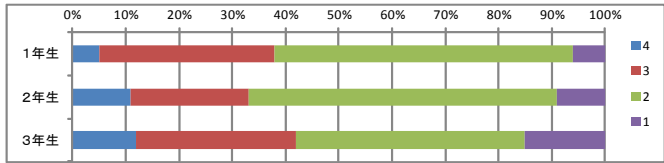
数字は%

	4 とても好き	3 まあ好き	2 あまり好きでない	1 まったく好きでない
1年生	11	36	44	9
2年生	5	28	52	15
3年生	3	26	52	19



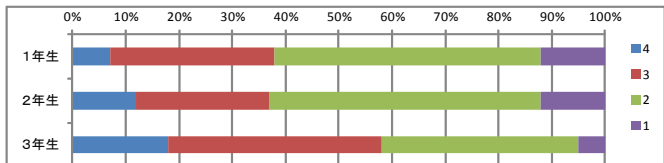
2 平日の勉強時間はどれくらいですか

	4 2時間以上	3 1~2時間	2 1時間以内	1 ほとんどしない
1年生	5	33	56	6
2年生	11	22	58	9
3年生	12	30	43	15



3 休日の勉強時間はどれくらいですか

	4 2時間以上	3 1~2時間	2 1時間以内	1 ほとんどしない
1年生	7	31	50	12
2年生	12	25	51	12
3年生	18	40	37	5

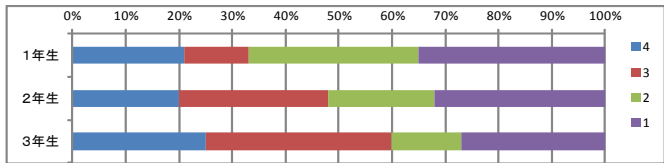


4 あなたは、家庭学習を行うとき、どんな内容を行いますか。

	宿題と塾や家庭教師の課題と自分で考えた内容	宿題と塾や家庭教師の課題	塾や家庭教師の課題のみ	宿題と自分で考えた内容	宿題のみ	ほとんどしない
1年生	5	18	15	16	40	6
2年生	9	16	10	21	35	9
3年生	12	15	8	31	19	15

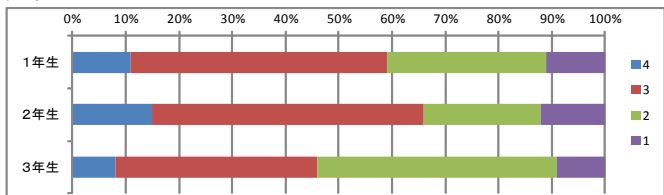
5 あなたは、家庭学習を行う時、最も参考にすることは何ですか？

	4 参考書・問題・など	3 塾や家庭教師の課題	2 学校からのプリント	1 先生の話
1年生	21	12	32	35
2年生	20	28	20	32
3年生	25	35	13	27



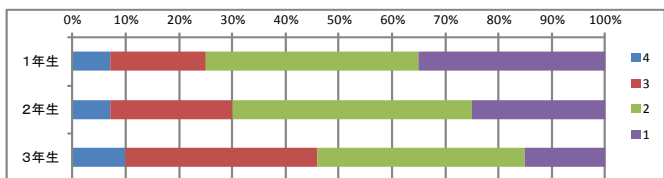
6 あなたは、家庭学習を進めていく上で、何があったら効果的だと思いますか。

	4 宿題の量を増やす	3 学校から勉強の仕方を知る	2 塾や家庭教師からの指導を増やす	1 先生・保護者からの励まし
1年生	11	48	30	11
2年生	15	51	22	12
3年生	8	38	45	9



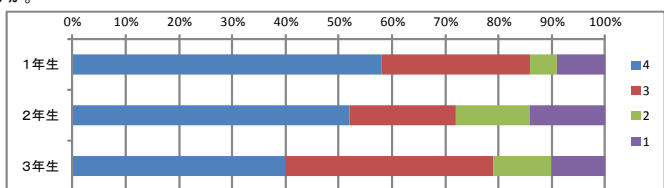
7 平日、テレビやDVD・ビデオを1日にどれくらい見ていますか。

	4 30分未満	3 30~60分	2 60~120分	1 120分以上
1年生	7	18	40	35
2年生	7	23	45	25
3年生	10	36	39	15



8 平日、スマートフォンやタブレットでSNSやメールをどれくらいしていますか。

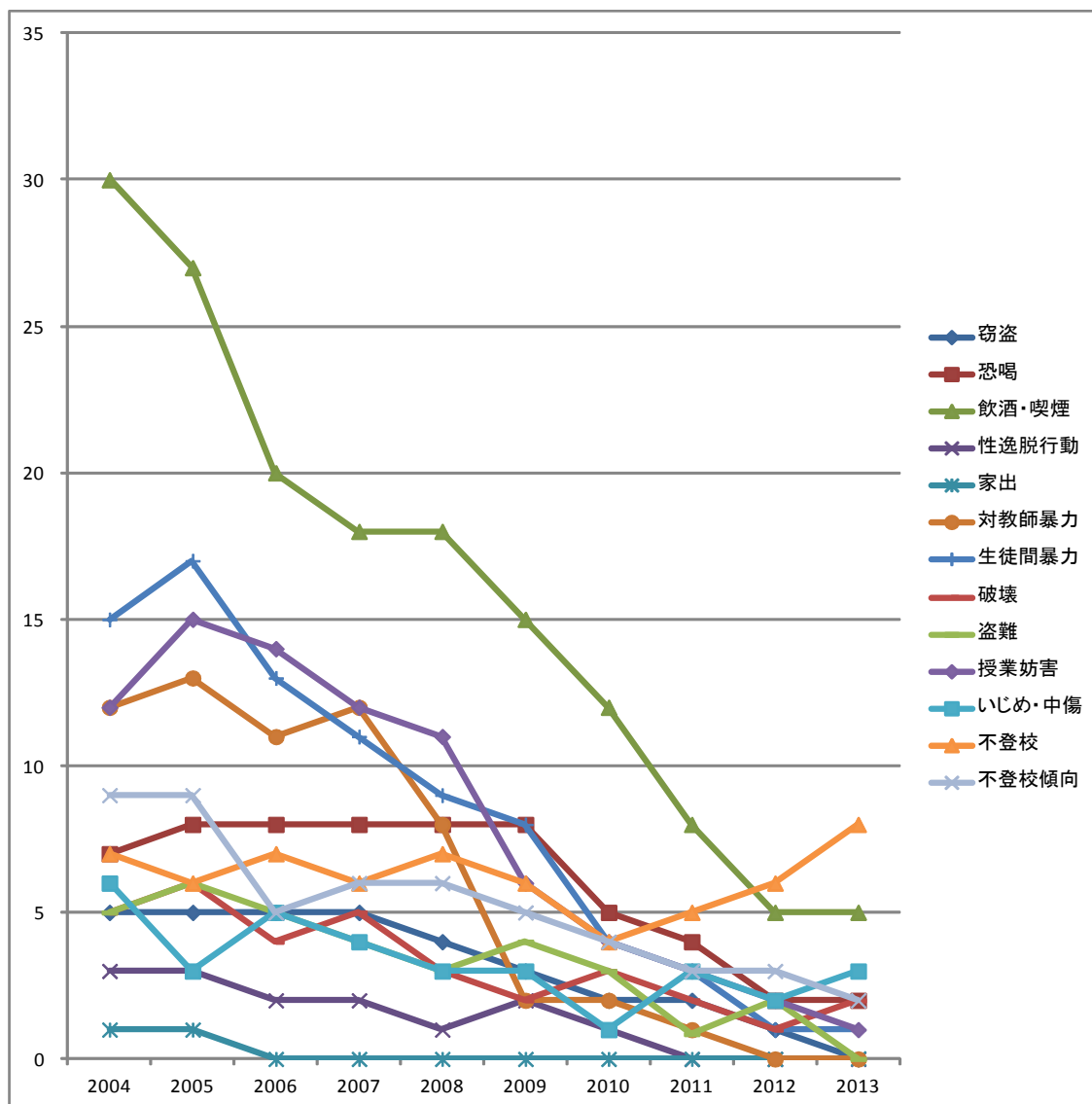
	4 していない	3 60分未満	2 60~120分	1 120分以上
1年生	58	28	5	9
2年生	52	20	14	14
3年生	40	39	11	10



問題行動統計

○問題行動の推移

	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010	2011	2012	2013
窃盗	5	5	5	5	4	3	2	2	1	0
恐喝	7	8	8	8	8	8	5	4	2	2
飲酒・喫煙	30	27	20	18	18	15	12	8	5	5
性逸脱行動	3	3	2	2	1	2	1	0	0	0
家出	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0
対教師暴力	12	13	11	12	8	2	2	1	0	0
生徒間暴力	15	17	13	11	9	8	4	3	1	1
破壊	5	6	4	5	3	2	3	2	1	2
盗難	5	6	5	4	3	4	3	1	2	0
授業妨害	12	15	14	12	11	6	4	3	2	1
いじめ・中傷	6	3	5	4	3	3	1	3	2	3
不登校	7	6	7	6	7	6	4	5	6	8
不登校傾向	9	9	5	6	6	5	4	3	3	2



主な指導部の今年度前期の実態（各主任からの聞き取りより）

1. 学習指導部

○目指す生徒像 ・各教科の実態に合わせて授業に学び合い活動を取り入れ、一斉指導・講義形式の授業からの脱却を進め、主体的に学ぶ生徒の姿を目指す。
○具体的実践内容 ・各教科の年間指導計画の中に学び合い活動を位置づけ、全教科、全学年で話し合い活動の充実に取り組む。
○成果 ・全教科で学び合い活動に取り組んだことにより、生徒のかかわりの質の向上が見られ始めている。 ・教科部内の情報交換が行われ、教師同士が互いに高めあえる姿が見えつつある。
●課題 ・本校が目指す学び合い活動の定義があいまいで、単なる話し合いに終わっている授業が多い。 ・教科担任の力量差が大きく、学び合いが形式的に終わり、内容の深まりが足りない授業が見られる。 ・これまでの自分の授業スタイルから脱却することができず、学び合い活動を取り入れることに消極的な教科担任が一部に見られる。

2. 生徒指導部

○目指す生徒像 ・基本的な生活習慣が定着し、自律的に規律正しい生活を実践できる生徒。
○具体的実践内容 ・全クラスで生活ノートの記入及び点検を行い、自らの生活を振り返り、律していく習慣を身につけさせる。
○成果 ・一時の荒れた状況から脱し、全体的に落ち着いて生活している生徒が多い。 ・生活ノートへの取り組みが定着し、ほとんどの生徒が自らの生活を振り返る習慣が身に付きつつある。
●課題 ・教師一人ひとりの力量差や意欲の差が大きく、生活ノートが形式的になったり、徐々に提出する生徒が少なくなってもそのままにしておくなど、学級による差が大きい。 ・一部に、「生徒指導＝強い指導」と捉えている教員がおり、行動の背景にあることに目を向けず、威圧的な指導で終わっている場合がある。 ・生徒の問題行動に遭遇してもその場で注意できず、他の教員の力を借りることでしか指導できない教員が少数ではあるが存在する。

3. 進路学習部

<p>○目指す生徒像</p> <ul style="list-style-type: none">・自らの生き方について真剣に考え、積極的に自らの進路について情報を集め、正しい判断をしていこうとする生徒
<p>○具体的実践内容</p> <ul style="list-style-type: none">・3学年を通した進路指導計画を基に、各学年の実態に応じた進路指導を計画的・継続的に行っていく。
<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none">・各学年の進路指導担当の指導のもと、計画的に進路学習の授業が展開されている。
<p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none">・3年生になると進学指導が中心となり、生き方指導の部分が弱まっている。・地域の企業・商店等で行う職業体験が定着しているが、体験学習が単発で終わり、自らの進路にどう生かすのかが不明確である。・学級担任の力量差により、進路学習の深まりに差が出ている。

4. 特別活動部

<p>○目指す生徒像</p> <ul style="list-style-type: none">・行事等への取組で、積極的に自らのよさを生かして集団に関わろうとする生徒。
<p>○具体的実践内容</p> <ul style="list-style-type: none">・3学年を通した特別活動計画を基に、各学年の実態に応じた指導を計画的・継続的に行っていく。
<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none">・学年の進路指導担当の指導のもと、計画的に特別活動への取組が展開されている。
<p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none">・一つ一つの行事が単発で終わり、3年間を通した学びの高まりや深まりにつながっていない。・学年間の交流が不十分で、下級生が上級生を目指す姿や、上級生が下級生をリードしていく姿がまだまだ不十分である。

5. 教務部

<p>○具体的実践内容</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒及び教職員が、見通しを持って活動に取り組めるよう、先を見通した提案を年間を通して行う。
<p>○成果</p> <ul style="list-style-type: none">・例年通りの活動については、早めの提案を行うことができ、見通しをもった取組につながっている。
<p>●課題</p> <ul style="list-style-type: none">・新たな提案を行うことができず、前年踏襲の維持がやっとなのである。

■「自分が朝日南中学校の校長だったら今後何に取り組むか」を以下に記入してください

■付箋貼付スペース

■気づいたこと

自分の特徴

上記の特徴が周囲に与えている影響

【情報収集】 ケース演習② 振り返りシート

【振り返りの進め方】

1. 左表に従って、自分が収集した情報を情報領域ごとに分類し、収集数を記入する。収集数を記入後、上位3項目に○、下位3項目に×をつける。
2. 展覧会で記入した付箋を、右表の貼付スペースに貼り付ける。
3. 左表と、付箋を見た上で、自分の情報収集の特徴とその特徴が出る理由を考え、右表「気づいたこと」の欄に記入する。

氏名： _____

情報領域	情報の内容（代表例）	収集数	○／×
児童・生徒	児童・生徒の実態（学力面・体力面・生活面・卒業後の進路の状況・学校満足度等）		
教職員	教職員の实態（よさや課題 特別な配慮を要する教職員の状況 同一校長期勤務者）		
	関係団体・機関との関係		
保護者	学校教育への期待・願い		
	保護者の実態（要保護・準要保護の世帯数）		
	学校納付金の集金状況（未納、滞納状況）		
	学校沿革・通学区域（通学距離・通学方法）		
学校	自校の特色や課題（子どもの人口の推移 入学予定者数 不登校・いじめ・問題行動の発生率 特別な支援を要する子どもの数 短期・中期的課題に関する取組の現状 等）		
	自校の教育目標 目指す学校像、生徒・児童像、教師像 重点目標 重点活動 教育課程 各分掌のまとめ・振り返り 等		
	教育予算の現状（学年教材費会計報告 学年預金会計報告 PTA会計報告 積立金（修学旅行）会計報告 その他会計報告 等）		
	教育施設の利用状況および条件整備		
	幼保・小・中・高の連携		
	施設・設備の管理		
地域	地域の学校に対する期待・願い（求める子ども像、学校像）		
	地域の課題（教育・産業・経済・文化・人口の推移・高齢化率）		
	地域のもつ教育的資源（人的資源、歴史・文化的資源 等）		
	教育委員会（教育長）の方針（重点施策 等）		
市町村教委（教育長）	各種規則（管理規則等）の確認		
	前年度の重点施策の評価（成果、課題、達成度等）		
	市内の学校の状況		
	施設管理（耐震状況等）		
首長	首長の教育への思い・願い、方針、施策		
	国の教育の動向（基本的方向性・成果目標・基本施策 等）（中教審管申）（教育再生実行会議）（教育振興基本計画）		
国	国の教育予算		
	都道府県教委の教育方針・重点施策		
都道府県教委	人事（加配 等）		
	議会		
外部機関	社会教育団体		
	警察・児童相談所・福祉部局		
	大学・研究機関等からの情報		
その他	近隣の校長との情報交換		

付箋貼付スペース

■気づいたこと

自分の情報収集の特徴

上記の特徴が出る理由

ケース演習2

情報収集シート(代表例)

現状を把握するための必要な情報内容		情報の入手方法(どのようにその情報を得るか)
児童・生徒	児童・生徒の実態(学力面・体力面・生活面・卒業後の進路の状況・学校満足度等)	○前校長との引継ぎ ○全国学力学習状況調査の分析 ○全国体力テストの分析 ○学校評価 ○地域(住民)へのアンケート調査 ○授業参観(校内巡視) ○職員会議、校内研修 ○子どもからの聞き取り(アンケート、校長室開放等)
教職員	教職員の实態(よさや課題 特別な配慮を要する教職員の状況 同一校長長期勤務者)	○前校長との引継ぎ ○教職員へのアンケート調査 ○面談 ○授業観察(校内巡視) ○児童・生徒の声 ○保護者の声 ○生徒(教職員)による授業評価
	関係団体・機関との関係	○前校長との引継ぎ ○教育委員会事務局からの聞き取り ○関係団体・機関との話し合い ○前任者からの引き継ぎ
保護者	学校教育への期待・願い	○前校長との引継ぎ ○PTA会長および役員との意見交換 ○学校評価アンケート ○PTA総会(議事録) ○保護者面談(学校行事参加時も含む) ○学年PTA ○学級懇談会 ○地区懇談会
	保護者の実態(要保護・準要保護の世帯数)	○前校長との引継ぎ ○事務職員・学年主任からの聞き取り ○統計データ
	学校納付金の集金状況(未納、滞納状況)	○事務職員(担当職員)・学年主任からの聞き取り ○データ
学校	学校沿革・通学区域(通学距離・通学方法)	○学校沿革史 ○担当教職員からの聞き取り
	自校の特色や課題(子どもの人口の推移 入学予定者数 不登校・いじめ・問題行動の発生率 特別な支援を要する子どもの数 短期・中期的課題に関する取組の現状等)	○前校長との引継ぎ ○ホームページ ○学校便り ○学校評価 ○統計データ ○関係機関との意見交換 ○教職員からの聞き取り ○校内児童生徒理解の会 ○学校関係者評価委員会 ○保幼小中連絡会議
	自校の教育目標 目指す学校像、生徒・児童像、教師像 重点目標 重点活動 教育課程 各分掌のまとめ・振り返り等	○前校長との引継ぎ ○学校要覧・教育計画 ○学校経営計画 ○教育課程年間指導計画 ○学校運営協議会の議事録 ○教職員によるSWOT分析 ○学校経営目標を確認する校内研修 ○分掌・学年による報告会
	学校財務(学校予算 学年教材費会計報告 学年預金会計報告 PTA会計報告 積立金(修学旅行)会計報告 その他会計報告等)	○前年度会計報告の写し ○教頭・事務職員・学年主任からの聞き取り ○教育委員会事務局との意見交換 ○予算委員会
	教育施設の利用状況および条件整備	○各教職員からの聞き取り ○施設安全点検記録簿
	幼保・小・中・高の連携	○学校訪問 ○前任者からの引き継ぎ ○教育委員会事務局との意見交換 ○校区内の校(園)長からの聞き取り ○事務職員からの聞き取り(共同実施) ○連携研修や行事の開催 ○校区内校長会聞き取り
	施設・設備の管理	○環境整備計画 ○防火・防災管理計画 ○事務職員からの聞き取り ○安全点検 ○学校保管のデータ
地域	地域の学校に対する期待・願い(求める子ども像、学校像)	○地域(住民)へのアンケート調査 ○地域(住民)との意見交換(地区懇談会) ○自治会長(民生委員)との会合 ○学校評価 ○学校評議委員会 ○自治会行事への参加 ○近隣校の校長からの聞き取り ○学校公開日の活用 ○地域の諸会議(○学校運営協議会) ○小中、中高連携協議会 ○社会教育担当者との懇談 ○同窓会役員との会合 ○保護者会、PTA会議での聞き取り ○教職員からの聞き取り ○学校開放、学校と地域行事の共催 ○企業訪問 ○学校関係者評価委員会 ○統計データ ○ホームページ ○コミュニティ・スクール
	地域の課題(教育・産業・経済・文化・人口の推移・高齢化率)	
	地域のもつ教育的資源(人的資源、歴史・文化的資源等)	○地域(住民)へのアンケート調査 ○地域(住民)との意見交換 ○自治会長、自治会役員との会合 ○教職員からの聞き取り(教職員によるSWOT分析) ○学校運営協議会
市町村教委(教育長)	教育委員会(教育長)の方針(重点施策等)	○市町村教育委員会作成の教育振興基本計画 ○教育長との懇談 ○校長研修等での教育長の講話や事務局からの連絡事項等 ○校長会議の出席
	各種規則(管理規則等)の確認	○各種規則(管理規則等)
	前年度の重点施策の評価(成果、課題、達成度等)	○教育委員会の点検評価報告書
	市内の学校の状況	○校長意見交換会
	施設管理(耐震状況等)	○教育委員会事務局からの聞き取り
首長	首長の教育への思い・願い、方針、施策	○マニフェスト ○議会答弁
国(文科省)	国の教育の動向(基本的方向性・成果目標・基本施策等) (中教審答申)(教育再生実行会議)(教育振興基本計画)	○文部科学省ホームページ ○中教審の議事録 ○校長研修会 ○教育法規 ○各種新聞
	国の教育予算	
都道府県教委	都道府県教委の教育方針・重点施策	○都道府県教育委員会作成の教育振興基本計画 ○教育行政方針(説明書等) ○県主催の各種行事への参加 ○校長ヒアリング ○学校運営協議会からの人事に関する意見
	人事(加配等)	
外部機関	議会	○議会の傍聴
	社会教育団体	○社会教育団体(公民館等)との情報交換会
	警察・児童相談所・福祉部局	○各種関係機関との情報交換会 ○訪問による情報交換
	大学・研究機関等からの情報	○教育委員会事務局からの聞き取り ○国立教育政策研究所ホームページ ○マスコミ関係 ○大学関係者との連携(HP活用、各種会議) ○他県教育センターのホームページ ○他県教育センターのHP
その他	近隣の校長との情報交換	○校長会等

問い: ツリーをつかって問題分析をしてください。またその真因も特定し、その根拠も含めてお答えください

全国学力・学習状況調査の結果が全国平均よりも低い

原因
の分析

真の原因
の特定

氏名： _____

■付箋貼付スペース

■気づいたこと

自分の思考特徴

「分析」で学んだことをどのような場面で応用できそうか

【分析】 補助資料 原因分析の留意点

「原因の分析」ステップで陥りがちな例です。参考にしてください。

■ 具体的な事実やデータに基づいていない(推測や思い込みで進めてしまう)

例① 【結果】 授業満足度が下がっている ← 【原因】 授業の質が落ちた

- ✓ 「授業の質が落ちた」という具体的な事実はあるのか？ 推測ではないか？

例② 【結果】 Aシステムの利用率が低い ← 【原因】 Aシステムは使いにくい

- ✓ Aシステムが使いにくいというのは事実か？ 思い込みや決め付けはないか？

■ 一つの原因に2つ以上の要素を含めてしまう

例① 【結果】 Bグループの残業が多い ← 【原因】 Bグループの仕事量が多く、人が足りていない

- ✓ 仕事の量が多いことと、人員が不足していることは、それぞれ別の原因として掘り下げる

例② 【結果】 Cエリアの学力が低下している ← 【原因】 教員が忙しく、職場にまとまりがない

- ✓ 営業が忙しいことと、チームにまとまりがないことは、それぞれ別の原因として掘り下げる

■ 結果←原因の関係になっていない(逆も成り立ってしまう)

例① 【結果】 仕事ができるようにならない ← 【原因】 仕事へのモチベーションが上がらない

- ✓ 仕事へのモチベーションが上がらない ← 仕事ができるようにならない と、逆も成り立ってしまい、「原因」とはいえない

■ 結果←原因の関係に飛躍がある

例① 【結果】 外出先で雨に降られ濡れてしまった ← 【原因】 天気予報で今日は晴れだと言っていた

- ✓ 雨に濡れた (←傘を持っていなかった) ← 天気予報が晴れだった

例② 【結果】 新人が育たない ← 【原因】 先輩が忙しい

- ✓ 新人が育たない (←先輩が新人指導に割く時間を取っていない) ← 先輩が忙しい

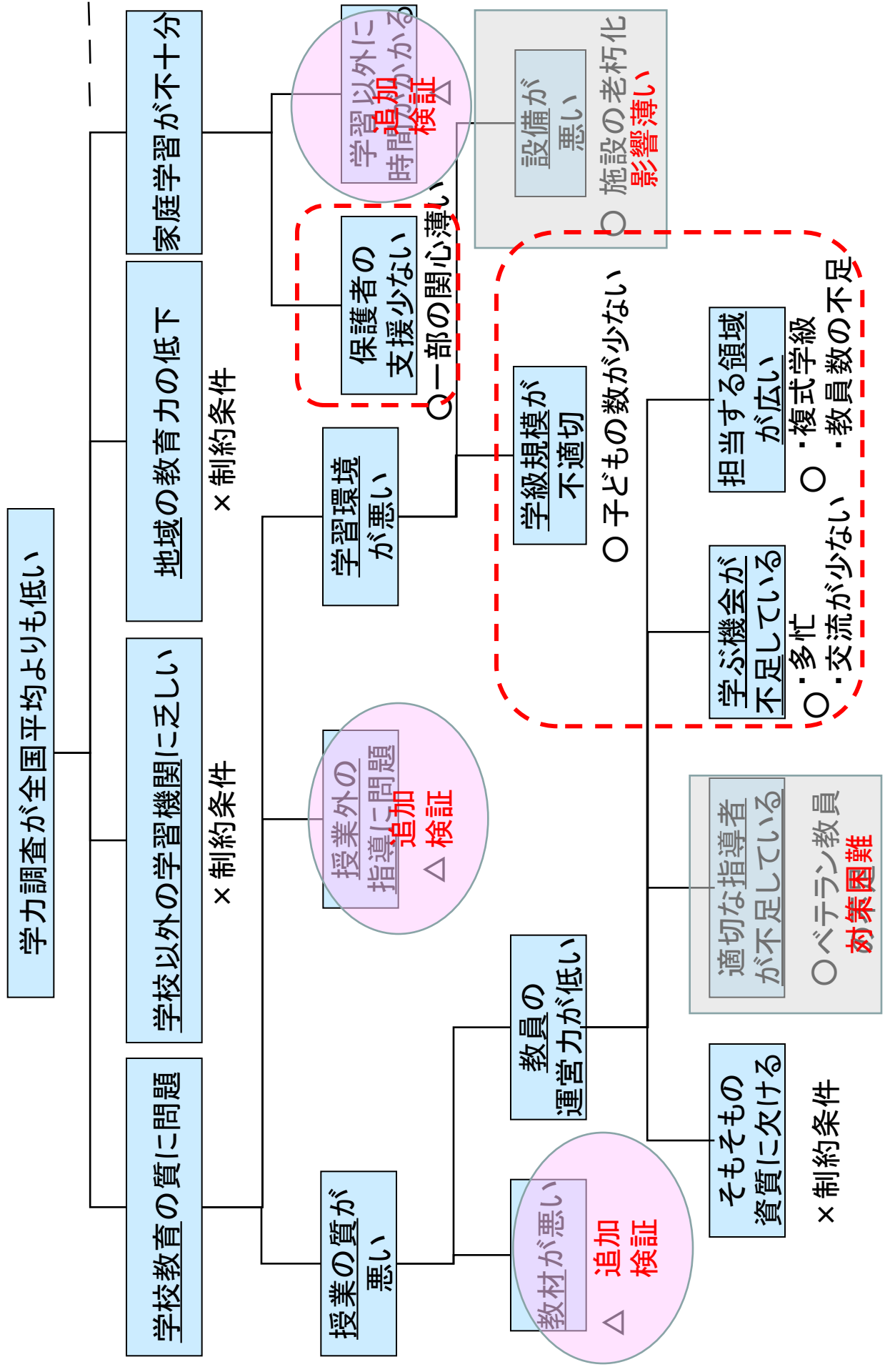
■ 原因を抽象化してしまう

例① 【結果】 若手のモチベーションが低下している ← 【原因】 マネジメントが機能していない

例② 【結果】 文部科学省に提出した書類にミスがあった ← 【原因】 仕事の能力が低い

- ✓ 抽象化してしまうと、原因が大きくなりすぎ、手の打ちようがなくなってしまう

ツリー作成例



【構想】 ケース演習① ありたい姿記載シート

目的(実現したい姿)

- 全体状況を見据え、あなたは校長として、朝日南中学校の教育において、どのような姿を実現しますか？

目標

- 上記の姿を実現するために、何を目標として設定しますか？最大5つ以内で設定してください。

氏名

- 目的(実現したい姿)と目標を設定した根拠を記入してください(「何故この目的と目標を設定したのか?」と関係者から聞かれた際に、相手を納得させられるように整理しておくこと)

【構想】 ケース演習 振り返りシート

■自らの着眼点の特徴(ケース演習① 目的・目標設定の根拠記載シート を確認してください)

情報領域	国・県の 方針	自治体の 方針	民意	自治体、 校区の 現状	環境変化	自分の 教育観
収集したか (○/×)						
重視度 (高/低)						

■自分の特徴について気づいたこと

自分の思考特徴や行動特徴(良い面・悪い面)

上記の特徴が何故出るか

上記の特徴が現実に応どんな影響を与えているか(良い面・悪い面)

氏名

(1)自治体、校区の現状

●自治体、校区には教育上どのような資源(強み)があるか？

●自治体、校区が抱えている教育上の大きな問題は何か？

(2)外部環境の変化

●教育を取り巻く環境が今後どのように変化するか？(政治/経済/社会/技術)

●上記が自治体、校区にどのような影響を及ぼすか？(ポジティブ/ネガティブ)

(6)私の教育観

●どういう大人に育てるべきか？

■上記の理由は何か？

(3)国・都道府県の教育方針

●国の教育方針は何か？

●都道府県教育委員会の方針は何か？

(4)自治体の方針

●自治体が出している方針(総合計画)を実現する上で、教育に求められることは何か？

●首長のマニフェストを実現する上で、教育に求められることは何か？

(5)民意

●住民が教育に求めていることは何か？

●そのために、どのような教育が求められるか？

【構想】 補助資料 全体発表の進め方

①発表について

時間は7分です

■ 聞き手に納得・共感してもらい、ありがたい姿を支持してもらうことをゴールにしてください

・発表の形式は自由ですが、「実現したい状態」と「目標」、「考えた理由」については必ず説明してください。

・時間が来ましたら、途中で中断します。

②質問について

時間は5分です

■ 関係者の立場に立って質問してください

質問する際に「保護者の〇〇ですが・・・」など、関係者の立場になって質問してください。

◇質問の観点例

教育長：「教育委員会の方針と整合性がとれているか？」

校区小学校長：「掲げられた内容が現実と大きなギャップがないか？」

保護者：「書かれている内容が具体的にイメージできるか？」

地域住民：「ありがたい姿が実現することで、地域にとってのメリットがあるか？」

■ 具体的な施策については、質問しないでください

× 「具体的にどんな施策を展開するのですか？」

○ 「その目標に書かれている〇〇とは、具体的にどういう結果を出すことですか？」

③フィードバックについて

時間は3分です

■ 付箋に「発表の良かった点・気になった点」を記入してください ※お名前は不要です

・黄色の付箋に「良かった点」、ピンク色の付箋に「気になった点・改善点」をご記入ください。

・付箋には「発表した内容」と「発表の仕方・伝え方」の両方、もしくはいずれかについてご記入ください

■ 記入し終わったら、発表グループの模造紙に貼り付けてください

【企画】 演習② 企画案の評価と改善案シート 企画案：「学校給食の地域の食堂としての活用」

氏名

企画案を読み、以下に各基準についての評価とその理由、改善案を記入してください。
 評価は、◎：高い水準で満たしている / ○：概ね満たしている / △：あまり満たしていない / ×：まったく満たしていない の4段階いずれかを記入してください。

	検討基準	評価	その理由	改善案
MUST 基準	①生徒向けの学校給食の献立そのものは変えない			
	②生徒と地域住民が一緒に給食をとること			

	検討基準	評価	その理由	改善案	
WANT 基準	③地域住民が、生徒に食事マナーを教えてくれること				
	④お年寄りの生きがいにつながること				
	⑤新たな予算が発生しないこと				
	⑥教職員の負担が増えないこと				
	⑦なるべく地元食材を使うこと				

プロジェクトチームから、以下の企画案の提案がありました。

1 企画名称

学校給食の地域の食堂としての活用

2 目的

(1)安心・安全な学校給食を地域に開放することで、いままでの学校給食という枠組みを超えた行政サービスの一環として給食を捉え直す。

(2)地産地消と同時に、生産者その本人と消費者である児童・生徒がお互いに顔を合わせることで、子どもたちが地域を考えるひとつのきっかけとする。

(3)地域の食堂として学校給食を活用することにより、地域の方々が学校へと足を運び、地域のコミュニティとしての学校づくりの推進を図る。

(4)世代を超えた交流により、高齢者に対して、福祉の向上やふれあいを深める機会とする。

3 内容

(1)ゆいランチサービスシステム

中学校における給食を1か月前までに申し込むことで、当日、生徒とともに給食を摂ることができるシステムの構築。そのためには、学校のホームページ・学校だより等からの案内と申し込みシステムを構築する必要がある。

(2)地域住民への協力依頼

食事の際、子どもとの積極的な会話や指導をお願いする。

(3)参加者による料理一品の持ち込み企画


来る人には、一品を1クラス分持込むようお願いする。

4. 研究計画

5月	研究計画の策定	10月	課題の検討
6月	システムの検討①	11月	第2回試行
7月	システムの検討②	12月	課題の検討
8月	システムの検討③ 調理室の改造	1月	第3回試行
9月	第1回試行	2月	研究のまとめ

執筆者（順不同）

日渡 円	兵庫教育大学
小西 哲也	兵庫教育大学
諏訪 英広	兵庫教育大学
毎野 正樹	兵庫教育大学
押田 貴久	兵庫教育大学
三田村 彰	福井大学
葛西 耕介	愛知県立大学
桑原 鉄次	長崎県教育センター
稲垣 健	神戸市総合教育センター
小和田和義	福井県教育研究所
池田 浩	新潟市教育委員会
中澤 美明	北海道立教育研究所
谷口 史子	宮崎県延岡市立旭中学校
澄川 忠男	山口県山口市立白石小学校
藤本 孝治	山口県山口市立湯田中学校
西山由花子	岡山県久米南町立久米南中学校
藤田 亮	兵庫県加西市立北条中学校
西井 直子	三重県松阪市立久保中学校
毛利 繁和	北海道函館市立本通中学校
宮脇 浩和	兵庫教育大学
坂地 亜紀	兵庫教育大学

国立大学法人
 兵庫教育大学

平成 28 年度総合的な教師力向上のための調査研究事業
実施テーマ：教員養成塾（「教師塾」等を活用した教員の養成）

新しい時代に対応する学校管理職マネジメント研修に係る研究報告書

編集

新しい時代に対応する学校管理職マネジメント研修に係る研究会議

発行

国立大学法人 兵庫教育大学

平成 29 年 3 月 15 日発行